

事例 11 株式会社フジクラ

～ 健康担当役員（CHO）を選任して、全社的な取組 ～

～ 健康診断データや歩数イベント参加度などの分析結果を踏まえ、自分の健康が見えるサイトの構築、睡眠力向上プログラム等を実施 ～

1 企業の概要
<ul style="list-style-type: none">○光ファイバー等の通信ケーブルや、電線、ワイヤーハーネス等を製造する非鉄金属メーカー。○従業員数は、単体で約 2,600 人、連結で約 58,000 人。
2 健康確保対策の特徴
<p>(1) 取組の体制、経緯、方針</p> <ul style="list-style-type: none">○CHO（Chief Health Officer）を選任し、健康経営推進室が中心となって、全フジクラグループでの取組を実施。○社内外に向けて「フジクラグループ健康経営宣言」。○健康推進連絡協議会（健保、人事・総務、産業保健スタッフ、健康経営推進室で構成）、さらに健康推進委員会（各事業部門の責任者、スタッフ部門長、労組委員長で構成）、健康推進サポート会議（従業員の代表者、安全衛生委員等で構成）を開催。 <p>(2) 取組の内容、目標設定、成果</p> <ul style="list-style-type: none">○健康診断の各種データを事務所別、男女別等に色分けしてマッピング（青は前年より良い、濃いオレンジは非常に悪い）。○健康診断のデータを独自の手法で点数化し健康度を測定。歩数イベントの参加度（アクティブ度）との相関を年代別に比較。グループ会社で平均歩数を比較。○各種データ分析の結果、①血糖値の高止まり、②車通勤者が多い事業所で下肢筋力の低下、③40歳未満の若年層の活動量の低下の問題が判明。また、睡眠不足や肩こり・腰痛の問題による生産性低下の懸念ありとデータで出ると、各々の課題に応じた介入施策を事業所、個人等、その課題がある対象範囲に限って実施。○その他、個人への情報提供を目的として自分の健康が見えるサイトの構築、睡眠力向上プログラムやブレイン・コンディション・プログラム等の多くの健康増進プログラムを自由参加方式で提供。○さらに、若者を巻き込むための工夫として、自転車、ノルディック、スピードウォーク等、単に歩くという古典的な手法ではないメニューも用意。 <p>(3) 社会的な評価</p> <ul style="list-style-type: none">○健康経営銘柄 2018○健康経営優良法人 2018・2017○健康寿命をのばそう！アワード第 2 回○スポーツエールカンパニー <p>(4) 自社の状況（強み・弱み等）を踏まえた工夫や、取組が上手くいくポイント</p> <ul style="list-style-type: none">○様々なデータを一元的に分析し、会社全体、事業所、事業部、部署、個人それぞれの傾向を捉えて、必要な介入施策を必要な単位で行うことで、介入施策の効率化を図り投資効率を高めるとともに、効果的な効果検証を行いやすくすることで PDCA サイクルの回転率を上げる。○社会心理的な視座に基づいた仕組みや構造の構築、およびコミュニケーション手段を選択することで、取り組みに対する心理的障壁を下げ、取り組みやすい環境を提供。